

13A

たかせぶね
高瀬舟(1)

氏 名

組

番

得 点

50

1

次の――線部の片仮名を漢字に直し、漢字は読み仮名を書きなさい。

- (1) 二十世紀の世界をカエリみる。
(2) 支払いをサイソクする。
(3) ビデオにフシな男が写っている。
(4) 優勝のあかしとして盾をサズける。
(5) 生活費を稼ぐ。
(6) 儉約に努めている。
(7) 幾度失敗したかわからない。
(8) 軒下到大根をつるす。

(各2点×8)

(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)

2

次の語句の意味として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。
けしき 気色

- ア 自分の周りの環境 イ 自分の周りの見え方
ウ 人の外面に表れた様子 エ 人が内に秘めた気持ち
(2) 帳尻を合わせる
ア こっそりと不正をする イ 収入と支出が合うようにする
ウ 人の意見に同調する エ みんなが一斉に終わる
(3) 慈悲

(3)	(2)	(1)

(各6点×3)

3

次の□に入る語句として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ記号は一回しか使えません。)

- (1) そんなことは、□考えてみようとしなかった。
(2) □考えてみても、理由がわからない。
(3) 風が強くて、前進できないばかりか、□後ろに下がってしまう。
(4) □一人で行くつもりだったので、心配はいらない。
ア もとより イ ついぞ
ウ いかに エ ややもすれば

(4)	(3)	(2)	(1)

(各4点×4)

13_B

高瀬舟(1)

氏 名	組 番
得 点	50

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

当時、遠島を申し渡された罪人は、もちろん重い科を犯したものと認められた人ではあるが、決して盗みをするために人を殺し火を放ったというような、^{※1} 獐惡な人物が多数を占めていたわけではない。高瀬舟に乗る罪人の過半は、いわゆる心得違いのために、思わぬ科を犯した人であった。ありふれた例を挙げてみれば、当時、^{※2} 相対死といった情死を図って、相手の女を殺して、自分だけ生き残った男というような類いである。

そういう罪人を乗せて、入相の鐘の鳴る頃にこぎ出された高瀬舟は、黒ずんだ京都の町の家々を両岸に見つつ、東へ走って、加茂川を横切って下るのであった。この舟の中で、罪人とその親類の者とは夜通し身の上を語り合う。いつもいつも悔やんでもかえらぬ繰り言である。護送の役をする同心は、^{※3} そばでそれを聞いて、罪人を出した親戚眷族の悲惨な境遇を細かに知ることができた。所詮町奉行所の白洲で表向きの口供を聞いたり、役所の机の上で口書を読んだりする役人の、夢にもうかがうことのできぬ境遇である。

同心を勤める人にもいろいろの性質があるから、このときただうるさいと思って、耳を覆いたく思う冷淡な同心があるかと思えば、また、しみじみと人の哀れを身に引き受けて、役柄ゆえ気色には見せぬながら、無言のうちにひそかに胸を痛める同心もあった。場合によって非常に悲惨な境遇に陥った罪人とその親類とを、特に心弱い、涙もろい同心が宰領してゆくことになる、その同心は不覚の涙を禁じ得ぬのであった。

そこで、^{※4} 高瀬舟の護送は、町奉行所の同心仲間得不快な職務として嫌われていた。(森鷗外『高瀬舟』)

※1 獐惡 凶悪で乱暴な性質。

※2 白洲 罪人を取り調べ、裁きを下した場所。

※3 口供 口頭で罪状を申し述べること。

※4 口書 口供を筆記し、記録に残したもの。

問一 線①「高瀬舟に乗る罪人」について、次の(1)～(3)に答えなさい。

- (1) どんなふうに罪を犯した人が多かったのですか。(8点)

- (2) どのような経路で護送されていくのかが述べられた一文を文中から探し、その初めの五字を書き抜きなさい。(8点)

- (3) 罪人と同心のほかに、高瀬舟には誰が乗りますか。(8点)

問二 線②「そばでそれを聞いて……悲惨な境遇を細かに知る」とありますが、罪人のことを知るのに、これと対照的なやり方を二つ、文中の言葉を使って書きなさい。(各8点×2)

問三 線③「高瀬舟の護送は……嫌われていた」とありますが、それはなぜですか。次のうちから選び、記号で答えなさい。(10点)

- ア 凶悪な罪人と一晩同じ舟で過ごさねばならないから。

- イ 罪人のくだらない繰り言を長々と聞かされる羽目になるから。

- ウ 罪人といっしょに舟に乗りたがる親類たちを止めねばならないから。

- エ 罪人と親類の悲惨な境遇に同情してつらくなってしまうから。

14^A

たかせぶね
高瀬舟(2)

氏 名

組

番

得 点

50

1

次の――線部の片仮名を漢字に直し、漢字は読み仮名を書きなさい。

- (1) 町ブギョウの職に就く。
(2) ケチガいの強さを發揮する。
(3) こんなことをしてもゼニにならない。
(4) 不幸なキョウグウにも負けない。
(5) 肘で隣の人をつつく。
(6) 鬼のような形相。
(7) 棧橋で見送る人々。
(8) 紙面の半分を割いて事故の記事を載せる。

(各2点×8)

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)

2

次の語句の意味として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

- (1) 所詮
ア 結局のところ イ どうにもこうにも
ウ 今さらながら エ いくらなんでも
(2) 条理
ア 物事の決まり イ 物事の評判
ウ 物事の多面性 エ 物事のすじみち
(3) 不覚
ア 勘違いをすること イ 思わず知らず、そうなること
ウ 物忘れが激しいこと エ なかなかうまくいかないこと

(各6点×3)

(1)	(2)	(3)

3

次の語句のうち、(1)・(2)は類義語を、(3)・(4)は対義語を後の漢字を組み合わせ作りなさい。(ただし、同じ漢字は一回しか使えません。)

(各4点×4)

- (1) 温順
(2) 出納
(3) 漠然
(4) 冷淡

然 親 判 厚
支 収 切 温

(1)	(2)	(3)	(4)

14_B

たかせぶね
高瀬舟(2)

氏 名	組 番
得 点	
50	

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「弟は目で私のそばへ寄るのを止めるようにして口をききました。ようようものが言えるようになったのでございます。『すまない。どうぞ堪忍してくれ。どうぞ治りそうにもない病気だから、早く死んで少しでも兄貴に楽がさせたいと思ったのだ。笛を切つたらすぐ死ねるだろうと思つたが、息がそこから漏れるだけで死ねない。深く深くと思つて力いっぱい押し込むと、横へ滑つてしまった。刃はこぼれはしなかつたようだ。これをうまく抜いてくれたらおれは死ねるだろうと思つている。ものを言うのが切なくつていけない。どうぞ手を貸して抜いてくれ。』と言うのでございます。弟が左の手を緩めるとそこからまた息が漏ります。私はなんと言おうにも、声が出ませんので、黙つて弟の喉の傷をのぞいてみますと、なんでも右の手に剃刀かそりを持つて、横に笛を切つたが、それでは死に切れなかつたので、そのまま剃刀を、えぐるように深く突つ込んだものと見えます。柄がやつと二寸ばかり傷口から出ています。私はそれだけのことを見て、どうしようという思案もつかずに、弟の顔を見ました。弟はじつと私を見つめています。私はやつとのこととで、『待つていてくれ、お医者を呼んでくるから。』と申しました。弟は恨めしそうな目つきをいたしましたが、また左の手で喉をしっかりと押さえて、『医者がなんになる、ああ苦しい、早く抜いてくれ、頼む。』と言うのでございます。私は途方に暮れたような心持ちになつて、ただ弟の顔ばかり見ております。こんなときは、不思議なもので、目がものを言います。弟の目は『早くしろ、早くしろ。』と言つて、さも恨めしそうに私を見ています。私の頭の中では、^③なんだかこう車の輪のような物がぐるぐる回っているようでしたが、弟の目は恐ろしい催促をやめません。^④」

(森鷗外『高瀬舟』)

※笛Ⅱのどぶえ。

問一 ― 線①「深く深くと思つて力いっぱい押し込む」とありますが、結局剃刀はどれぐらい深く刺さっていますか。次の文の A・B に入る言葉をそれぞれ文中から書き抜きなさい。(各6点×2)

剃刀の A がやつと B ばかり傷口から出ている程度に深く刺さっている。

B	A

問二 ― 線②「左の手で喉をしっかりと押さえて」いるのは、何のためですか。(8点)

問三 弟が死のうとした理由がわかる一文を文中から探し、その初めの五字を書き抜きなさい。(10点)

--	--	--	--	--

問四 ― 線③「なんだかこう車の輪のような物がぐるぐる回っているよう」とありますが、このときの「私」の気持ちを次のうちから選び、記号で答えなさい。(10点)

- ア なんとんでも弟の命を助けなければ。
イ 弟に恨まれるのは嫌だ。
ウ 兄思いの弟を持つている自分は幸せだなあ。
エ いったいどうしたらよいのかわからない。

問五 ― 線④「恐ろしい催促」とありますが、これはどんなことの催促ですか。(10点)